文字なし絵本を用いた母親の読み聞かせの変化

4ヶ月齢と9ヶ月齢との比較
○難波久美子^{1,3}・河合優年^{2,3}
(¹武庫川女子大学教育研究所・²武庫川女子大学文学部・³Japan Children's Study group)
キーワード: 母子相互作用、文字なし絵本、追跡研究

How Mothers read a picture book without words to their children: Transition from 4month-old to 9month-old.
Kumiko NAMBA¹, Masatoshi KAWAI² and JCS³
(¹Institute for Education, Mukogawa Women's Univ., ²School of Letters, Mukogawa Women's Univ., ³Japan Children's Study group)
Key words: mother-infant interaction, picture book without words, longitudinal study.

目 的

発達初期の社会性を形成する要因として、ものを介した母子関係のあり方が重要であるとされてきているが、絵本の読み聞かせは、文脈という流れをもった関わりという意味で、おもちゃとは異なる関係性指標として意味を持っている。

難波・河合（2009）では、文字なし絵本を通じた4ヶ月齢の子どもに対する働きかけと、子どもの発達状況（KIDS）・母の育児ストレスについて検討した。その結果、言語（表出）と社会性（対成人）の領域得点の高低によって特徴づけられる2つのクラスタが得られ、得点の高いクラスタの方が、母の「子どもへの働きかけ」の発話が多かった。4ヶ月齢では、自発的な反応は増えるものの、コミュニケーションは限られている。そのため、母が子どもの反応をみて調節しているようであった。

それでは、9ヶ月齢になるとコミュニケーションにどのような変化が起こるのであろうか。9ヶ月齢になると、3項関係が徐々に成立し始め、ものを介したコミュニケーションが活発になってくる。加えて、絵本を介したコミュニケーションは、文脈があるという点が大きな特徴となる。そのため、理解言語が増加するこの時期では、母はより文脈の理解を促すような情報を提供するコミュニケーションを図ると思われる。

4ヶ月齢時と同様に母の発話に注目し、同じ絵本を用いて発話内容の変化を検討することで、9ヶ月齢時のコミュニケーションの特徴を示すことを目的とする。

方 法

調査対象と期間：JCS 武庫川ラボにおいて、JCS に研究協力者として参加している母子 22 組を対象とした。観察は、2007 年度に 4 ヶ月齢を迎えた対象児が、9 ヶ月齢を迎えてから 2 週間以内に実施された。

観察場面の設定と記録方法：母子は約 5m 四方の観察室において、設定場面に続き、絵本を渡され「ゆっくり読んであげてください」とのみ教示を受けた。座り方・抱き方等は母子に任せた。そこでの母子行動は 4 台のカメラで撮影され、VR777 にデジタル記録された。絵本場面開始から終了までの母子の発話（発声）を分析対象とした。

材料：用いられた本は「あめふり」（まっついりこ作・絵、偕成社。14cm×14cm のボードブック、表紙と見

開き 7 ページからなる）である。降り出した雨がだんだんと激しくなり、やがて止んでいく様子が描かれており、最後に『おてんきに なった』という一文のみの“字のない絵本”である。

結 果

難波・河合（2009）と同様に、母親の発話をカテゴリ分けした。絵本の読み始めから終了までの時間は、4ヶ月齢時は9ヶ月齢時の倍程度、発話頻度も同様に差があった。そこで、カテゴリの発話頻度を、全発話頻度で割った値を発話頻度割合とし、指標とした。各カテゴリの発話頻度割合は、4ヶ月齢時と9ヶ月齢時では、ほとんど差がなかった（「情緒的な説明」のみ $F_{(1,21)}=5.49, p<.05$. 4ヶ月齢>9ヶ月齢）。

次に、4ヶ月齢時の発話頻度割合と9ヶ月齢時の発話頻度割合の相関係数を求めた（Table）。「情報提供」・「情緒的な説明」・「子どもへの働きかけ」・「歌」の各カテゴリでは、有意な中程度～強い相関があった。「注意喚起」・「場面転換」では、有意な相関係数が得られなかった。

各カテゴリ間の相関係数を確認すると、4ヶ月齢時の「注意喚起」と9ヶ月齢時の「情緒的な説明」（負）、4ヶ月齢時の「子どもへの働きかけ」と9ヶ月齢時の「情報提供」（負）、4ヶ月齢時の「象徴遊び」と9ヶ月齢時の「歌」（正）にそれぞれ有意な中程度の相関がみられた。

考 察

「情報提供」や「情緒説明」、「歌」ではある程度一貫しているが、特に「注意喚起」では、4ヶ月齢で多いと9ヶ月齢で「情緒的な説明」が少ないという移行がみられる。これは、4ヶ月齢時点では、おもちゃと同様、絵本に注意を振り向けさせることに主眼があったが、9ヶ月齢時点では、その必要がなくなり、他のモードに分散したと考えられる。子どもの状態に合わせて母親がモードを変化させたと考えられよう。

引用文献

難波久美子・河合優年（2009）．児の言語・社会性発達と母親の発話・育児ストレスとの関連—4ヶ月齢における字のない絵本を介した母子相互作用場面を用いて— 日本心理学会第73回大会発表論文集, P1202.
(Namba, K.,& Kawai, M.)

Table 母親の発話頻度割合の4ヶ月時と9ヶ月時の相関係数(N=22)

	4ヶ月	情報提供	情緒説明	注意喚起	働きかけ	歌	場面転換	象徴遊び	その他
9ヶ月									
情報提供／発話		.60 **	-.17	-.13	-.46 *	-.07	.06	-.35	.01
情緒的な説明／発話		-.09	.74 **	-.55 **	-.09	.22	-.23	-.06	-.11
注意喚起／発話		-.28	-.02	.28	.24	.07	-.17	-.17	.02
子どもへの働きかけ／発話		-.14	-.18	-.04	.44 *	-.28	-.29	-.31	-.15
歌／発話		-.18	-.10	.29	.01	.46 *	.07	.64 **	-.16
場面転換／発話		-.40	-.11	.28	.27	.07	.19	-.04	.31
象徴遊び／発話									
その他／発話		-.10	.13	-.04	-.06	-.18	.31	.44 *	.17

**p< .01, *p< .05